

「令和の日本型学校教育 千葉市型」の構築を目指して

—自立した学習者を育てるための六つのアプローチから—

6 成果

「自立した学習者」の育成を目指すことは、授業の質、教職員の資質能力を高める上で極めて有効であると考え研究を進めてきた。それはこれまでの授業自体を「コンピテンシーベース」主体の授業に変革していく必要が生じるからである。六つの研究の成果を以下に要約してみる。

①授業改善に関する研究

「自立した学習者」育成のための授業のポイントは、子供が主体となって「見通し・振り返り・自己調整」のできる授業設計を考えていくことである。

②ICT活用に関する研究

学習者が主体的にICTツールを活用できるようにするためには、「教える」「選択させる」「決めさせる」といった段階を取り入れた授業設計が必要となる。

③デジタル・シティズンシップ教育に関する研究

Society5.0社会に求められる資質・能力を育成するためには、適切な指導事例を開発し発達段階に応じた指導実践を積み重ねていくことが肝要である。

④教育相談に関する研究

アセスメントシートとマイクロミーティングの活用により、教職員の孤立を防ぐとともに、支援の外にいる子供を「支援の輪」に入れることが可能となる。

⑤教職員研修に関する研究

教職員の合理的なキャリアアップを図るための支援ツールとして、「育成指標を基にした研修の見える化」が有効であることを、エビデンスを基に実証できた。

⑥カリキュラム・マネジメントに関する研究

学校組織全体で目指す子供の姿を実現するためには、

グランドデザインを基に、育成を目指す「資質・能力」を共有し、各教科等でカリキュラム・マネジメントを計画的に進めることが必要であるということがわかった。

7 課題

「自立した学習者」の育成を軸に、「令和の日本型学校教育 千葉市型」の在り方を模索し、六つの研究成果から、成すべき行動指針を具体的に示すことができた。

ただし、ここでの成果は研究協力員や研究協力校におけるデータが基盤である。今後、より多くの学校での実践結果を踏まえ、より合理的な指針へと改善し、確実なものにしていかなければならない。そして六つの研究成果をどのように有機的に構造化していくことが最適なのかを考えていくことも必要である。

「千葉市型」学校教育の授業実践を本市全学校に普及させるためには、その価値を実感できる機会の提供が必須で、本センターの果たすべき役割は大きいと考える。

8 おわりに

私たちには、AIと共存する超スマート社会で生きる子供たちにどのような資質・能力を育成しなければならないかを真剣に考え、教育を行うことが求められている。「知識（何を知っているか）を問う」教育から「活用する（何ができるのか）」教育への移行はその一つである。未知の問題に対しても果敢に取り組み、それを乗り越えることができるような力は、主体的に学びに向かう姿勢から培われる。ここで紹介した六つの研究は、このような考え方に根ざしたものである。「自立した学習者」育成を足掛かりにさらなる高みを目指し、研究を深めていきたい。

【研究組織】

○通年講師 元千葉大学 客員教授 堀米 宏

○所内担当 【教育研究・総務班】 金子 礼明 (担当) 井上 誠 勝治 雄紀 小倉 直子

【情報教育・広報班】 中村 雄司 【教育相談班】 谷口 浩孝 【教職員研修班】 中後 直樹

【主な引用／参考文献等】

・文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)」2021

・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2022年調査(PISA2022)のポイント」2023

千葉市教育センター 研究紀要第32号

○研究名：「令和の日本型学校教育 千葉市型」の構築を目指して ○研究対象：小・中・中等教育・特別支援学校

○研究領域：教育研究 ○研究内容キーワード：令和の日本型学校教育 千葉市型、自立した学習者、主体的に学習に取り組む態度、メタ認知、アクティブラーニング

「令和の日本型学校教育 千葉市型」

六つの研究の構造

主体的に学習に
取り組む態度の育成

アクティブ・
ラーニングの推進

「授業で勝負」
教職員の資質能力
の育成

千葉市で目指す子供の姿 自立した学習者

授業からのアプローチ

「コンピテンシーベース」
主体の授業

1 授業改善に関する研究

子供が主体となって「見通し・振り返り・自己調整」のできる授業設計で「自立した学習者」が育つ

3 デジタル・シティズン シップ教育に関する研究

適切な指導事例を開発し発達段階
に応じた指導実践の積み重ねで「自
立した学習者」が育つ

2 ICT活用に関する研究

「教える」「選択させる」「決めさせる」といった段階
を取り入れた授業設計で「自立した学習者」が育つ

授業を支える教職員・教育課程からのアプローチ

4 教育相談に関する研究

アセスメントシートとマイクロミーティングの活用は教
師と子供を「支援の輪」に取り込むのに役立つ

意識

5 教職員研修に関する研究

キャリアアップに「育成指標を基にした研修の見える化」が有効である

6 カリキュラム・マネジメントに関する研究

グランドデザインを基に、目指す「資質・能力」を共有し、各教科等で
カリキュラム・マネジメントを計画的に実行することで学校教育目標が
実現する